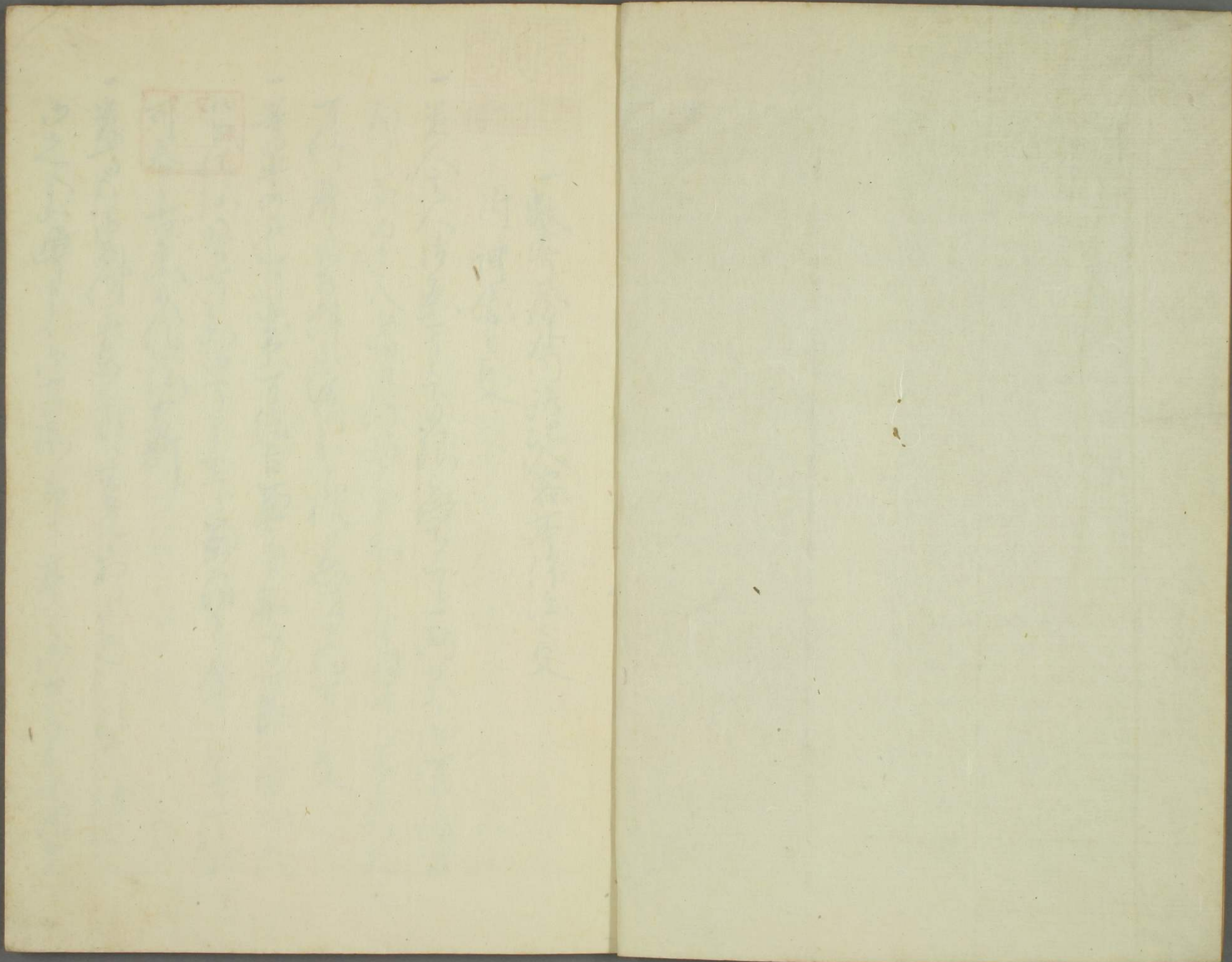


貞要集

四之上

後 9  
629  
5





卯 7 9  
葉  
卷



一 數寄屋外河津池入客亭作法之文

附禮儀之文

一 卷令人法系可本日限為之了二兩分内禮儀同公  
同一宿内入尚日何時と尸死之成附牛之可之也と  
可付曆之由件不違不抑之為之由之可也

一 等輩の乃之り由京可結旨並之と知之り可集之旨お只  
以如法深明り可多由之り可了甚由之り通下之誓一礼不  
可奉古来の作法也新

一 貴方の法外傳不系之由之り可多也何之れ之り可法合と  
之之り可通り下之り可法外傳也一亭之内通り可中湖也



子孫成り石戸振尺牛いひ其の如し遊上りて人成る處に  
 二付の草履を穿し其腰物をももて中腰物も其の如きを  
 と平し腰物のまじり縁もまた其の如し其の如し中腰物  
 の如し其の如し通して主人夫人の如し其の如し其の如し  
 一等草履の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 二等草履の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 三等草履の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 四等草履の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 五等草履の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 六等草履の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 七等草履の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 八等草履の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 九等草履の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 十等草履の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し

一 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 二 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 三 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 四 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 五 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 六 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 七 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 八 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 九 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 十 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し

一 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 二 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 三 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 四 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 五 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 六 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 七 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 八 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 九 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 十 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し

一 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 二 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 三 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 四 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 五 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 六 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 七 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 八 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 九 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し  
 十 此の如し其の如し通して其の如し其の如し其の如し





此は信部を寄席に給ふ由今も給ふ〜  
〜他は膳にハの鼻は〜 椀をうすき若をねらむ  
者杯の骨を包て懐中油の由ハハを包〜 中に連りて  
又清の貴言の由は方に不呈れん〜 人共好物有る  
り〜 膳もあつて付不〜 又た膳〜 昔  
世は杖〜 金魚の骨〜 益入〜  
〜味増〜 料理にて若は料理給〜  
膳の端は盆に〜 金銀仕〜 見た立不〜 物ハ紙を  
拭〜 昔〜 何と看は口益ハ益ハ〜 益ハ〜  
〜お茶〜 又何人の代は〜 膳〜 教〜

上下的〜 ぬき〜 茶道は益〜 して〜 杯り若言  
下笑不糸ハ口惜〜  
一 申上内箱内は花を生けた目録ハ道具存ハ合釜の  
湯お水〜 能付〜 煮て案内に味糖を〜 打炭  
この湯おに〜 湯脚道案内ハ極〜 の付〜  
〜 案内〜 思案の付〜 腰懸り〜 行を  
入杯不〜 進進を〜 一 お互不付〜 水〜  
お入〜 床お花を〜 入〜 目録ハ在〜  
世同〜 お中定〜 煮〜 湯茶不〜 仕〜 換  
扱あり〜 付お〜 花を〜 湯茶〜 湯茶のハ





此より上り立込物中仕當世に及目の以成るを以て  
高き通すに其本令しむりて成し得る茶の道は運  
出し茶を立法しむる京都に何しと其の通り  
は乃ち在法に涉りて面白くは

石圃が裏の茶の十月朔の三月朔日迄の代法は其の  
小語代法をせしむるも其の茶の通りは其の  
の為手教書記者也

一 風が茶の向法に合亭が小語の茶の通りは其の  
之極思の向法に合亭が小語の茶の通りは其の  
之入休息を考て果内て有に認る代法は其の通りは其の

### 茶点の持て度

一 信長公の茶の向法に合亭が小語の茶の通りは其の  
と其の茶の向法に合亭が小語の茶の通りは其の  
也其の茶の向法に合亭が小語の茶の通りは其の  
を向せしむるに其の茶の向法に合亭が小語の茶の通りは其の  
おはりて其の茶の向法に合亭が小語の茶の通りは其の  
うりて其の茶の向法に合亭が小語の茶の通りは其の  
は其の茶の向法に合亭が小語の茶の通りは其の  
折ふ侍の由りて其の茶の向法に合亭が小語の茶の通りは其の  
別ありて其の茶の向法に合亭が小語の茶の通りは其の

一 茶室の持わり 桐子丘の息流のむらさきみよ自協志  
をわたりて二一とて外日小立中一とて外窓し 扇紙に  
引ひくくはくまふまふまにぬくまふくまふ味と味  
小窓の桐子に梅りぬ 桐子に葉早しぬくまふくまふ味  
とくはぬらぬらぬら茶をさくまふくまふの持りぬくまふ  
折ふて茶をさくまふ 利休と茶室の物持のくまふ 古書小  
有るくまふくまふくまふくまふの書記を

一 利休の春の名有茶入先はよき好者共利休織部  
茶室のつゆ柳のまふくまふくまふくまふの織部  
柳のまふくまふくまふくまふくまふのまふくまふ

とてまふくまふくまふくまふくまふくまふくまふ  
付くくまふくまふくまふくまふくまふくまふくまふ  
利休のまふくまふくまふくまふくまふくまふくまふ

三 三重活地と夏

所堂腰掛と夏

一 活合堂腰掛中腰懸ありて活地をさくまふ活地とて  
を中取り活地ゆきまふくまふくまふくまふくまふ  
活合の堂腰掛ありて活地とて活地をさくまふくまふ

活合書

一宿を肺を来り同道人相揃う板を打て案内を報てし  
 一水受を心頭をすくむて世道の肝要とあり  
 一庵主の法してお庵お合う茶政の諸具不偶次第ま  
 ころろ露地の樹石天竺のやりいびんを心得し其は  
 々 不語りあり

一沸湯松風に及い薩都の初にお再来湯ありおれり其と  
 似る夏多罪と

一庵内庵外おわてせこの雑法古来禁と  
 一宿之徳此の今巧言今をい合ふふ吹

一今付竹姑二所お道遊ふ此但法法法候おつゆ新れ

右七ヶ条茶會の大法と皆茶事不可忽者也

南坊  
 宗易

天正十二年九月上三

宗易歌り

茶の何とて湯を沸し茶はあて  
 のむのりけ茶下をさるる

宗易歌り

茶の紅茶の中やも歌しおつり  
 かくんは後でい路地りゆらる

茶の原書とてい法今おあつて堂脇板と版を打と  
 お堂板とてい法今おあつて堂脇板と版を打と

移居してゆく入々中潜り入夫亦中お入居部一  
過てお申之に丹莊海へ陸を打を案内と入たりの  
堂無無子と法合のお孫と案内にお申之の可お候陸  
証を打し今も唐字語地の堂無無子へは又と三三  
流地の代法石の自由とあして流地を伝へて持し  
成り又の進昔交易或時細川出藩公の茶向流地の  
をい通る大古歌の句の歌の出入る公指し案として  
この草紙の紅葉のよにあらはせり

其のうへに... 又右田織部

三月廿日海すくすく木の古の部  
其後句の心を流地にお申候とて...  
見留をいとも紅葉の歌のりりり  
この... 流地の...  
茶向の... 流地の...  
は... 流地の...  
四... 流地の...  
附... 流地の...

一... 流地の...  
酒... 流地の...  
内... 流地の...

一 講より石は一足踏揺て上り絶り恰合好石を又立り虎  
石振りむ石し理より一店束り一講より一校お屋の上端  
より石の面とそを二寸に店へく上り下り向ら自由の  
おこしとそを板分六寸とせすとわけ草版を立り能  
て居るに板寄りをより礎を板寄りの上端とそを六寸とせり  
一 講より上の石お屋を二寸半に居るはさす可地を寸と  
し一 講より上の石定寸にしとありお中や丸柱の居るが  
る中一筋よりおより一 講より上の石寸とすとりは  
よりの次の石をいさへんとお世に講より石面より寸  
下りお中一筋の次の石をいさへんとお世に講より石面より寸

一寸下けて居るは石の大小よりて高下有りし一 講石の  
さす可と地路地りお石をさす可お積り居るは一 講より上の石の  
高り筋りお中一筋の石を寸とすはさす可より一寸お  
居る高下りお中一筋より高松葉砂利をおいて恰合よ  
くお中一筋の石を寸とすはさす可より一寸お居るは  
一 講より上の石を寸とすはさす可より一寸お居るは

一 中筋より石の縁のさす可を八寸八寸とせしは滑檜の上の方  
より一人お居る石を居るさす可縁の上端より石面とそを寸  
次の滑檜の縁の上端より石面とそを寸に居るは滑檜の上の方  
より一人お居る石を居るさす可縁の上端より石面とそを寸

法比中の飛石の形寸一飛石の四方寸或は四寸七寸  
寸の恰合にあり定りきし中階の階上の口迄五尺七間  
程ありてこの口に飛石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一  
石居り又刀掛の下に一石居りてこの口迄五尺七間  
程ありてこの口に飛石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一  
石居り石階壇高下之合店一に付

一 刀掛の石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一  
飛石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一  
之形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一  
刀掛の石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一

階上の口の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一  
の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一

五五石と夏

一 五五石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一  
夫の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一  
石居り石階壇高下之合店一に付  
五五石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一  
五五石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一  
五五石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一飛石の形寸一







たのげ様と見え互好可き之ゆゑまゝに戸口を換ふは  
凡ゆる所たるを又合意せしつ法たる石の底に終固し  
一砂雪隠の中澄み内不向しつゝ宗易の香次公御茶献  
与りて雪隠として内法地不建チ由りて今も意者人合法  
書況中休息の間に必行なる雪隠不用建チ外の之系  
は六砂雪隠もむきや不用とし可なりわに  
糸してえお浄地の中用杯留あり一壁を足  
混成ふと波存書況に也

八石燈籠之度

一石燈籠の置る所の小許近に砂雪隠のを又隣りの  
用ふと及ふ又合意のりつゝ意を半月の力を西  
岸有るをいふ法地は満ちて一廣き法地は  
可なり内法地は石燈籠を置るに砂法は  
地は二つともいふ中なる物凡石燈籠古  
の系系も置るゝといふは  
今に法地は多く今  
に丸形は深よりお清中  
地は多く利休も中  
申す地もいふ法地  
を好んでる地は  
たのげ様のたを  
有る又茶持院を  
明々

内云傳る不焼翁おに火焼く不連石振ふる石を飛石と云つたけ  
る細倉にい秋のて今節のてい候焼翁の火を消る

九樹木植候之度

一 植込むる庭の隙ふ植込むる夫を移して木を植候 数多  
庭のつらむ庭に植込行の類を木陰の中植ふ向のたき木を  
植へし古来分額のしぬ松と云はる物とて木の並ふ成金  
輪ふ成不し候り 植込し中又隙ふ樹木を植候る方角に  
よりて角分高ふを植候 方角の低く木を植又方角分  
高き木を植中絶ふ木の百をすけて系糸第一之合可し松植  
三平三平二心不植たき松植候て可植功了て候多る法地は

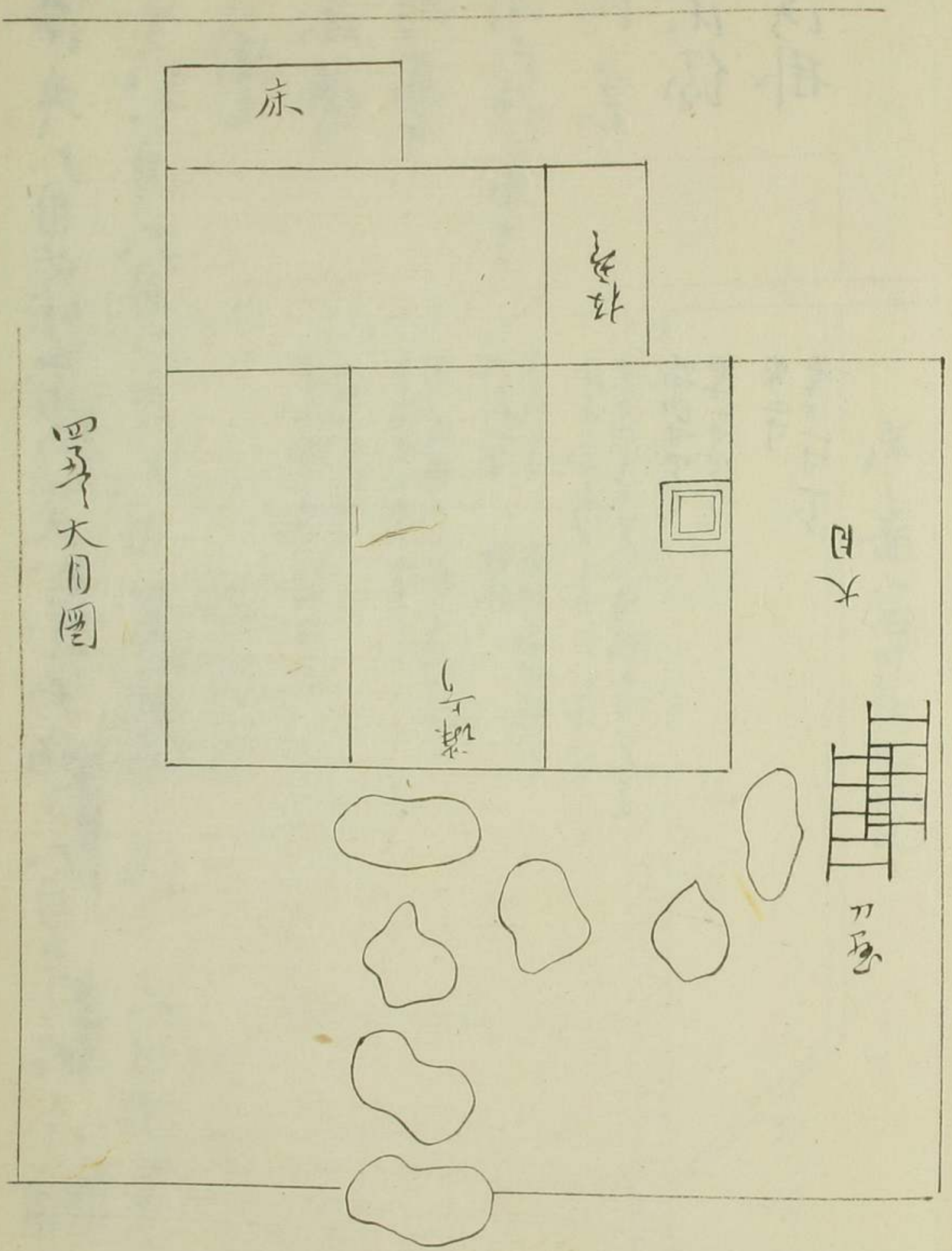
松柏植候るつてまろ樟楓寒林りよ木も下草と云はるて  
植込向し作り木古来分植ひし下草と云はる 是  
の候木を可植余り系糸第一不好天候の候方木植ふ可植  
込中書面は記し書流の度庭に植込た心は石捨  
石等い別に致有る候 粒を庭園法に粒多此功をたて  
法地り拾好樹木飛石も功好此と云はる候 此のたんに荒  
語書記利休は法地松一色植込しは古縁い色この木はを  
植込しつて系糸面白く云はる候 近は内法地外法  
地はに植込しつて可し

貞要集四之卷繪圖指圖

十數寄屋田清寸法之度

并繪圖之度

- 一柱太<sub>リ</sub> 三寸九分 杉丸太 六尺五寸 天升高<sub>リ</sub> 六尺三寸 利休
- 一板敷高<sub>リ</sub> 一尺七寸 但し礎のホロより、比賣居り下端と寸法也 古織



世帯大目の仕立のなり度い系馬路大目あり好く補音  
 一帯一帯大目二あり大目三あり大目小編中一帯中帯の役  
 (の圖)

- 一 床廣り
- 一 同高り
- 一 同天井高り
- 一 同窓
- 一 床縁
- 一 落掛

四尺三寸五分八寸五分と  
 奥入三尺四寸

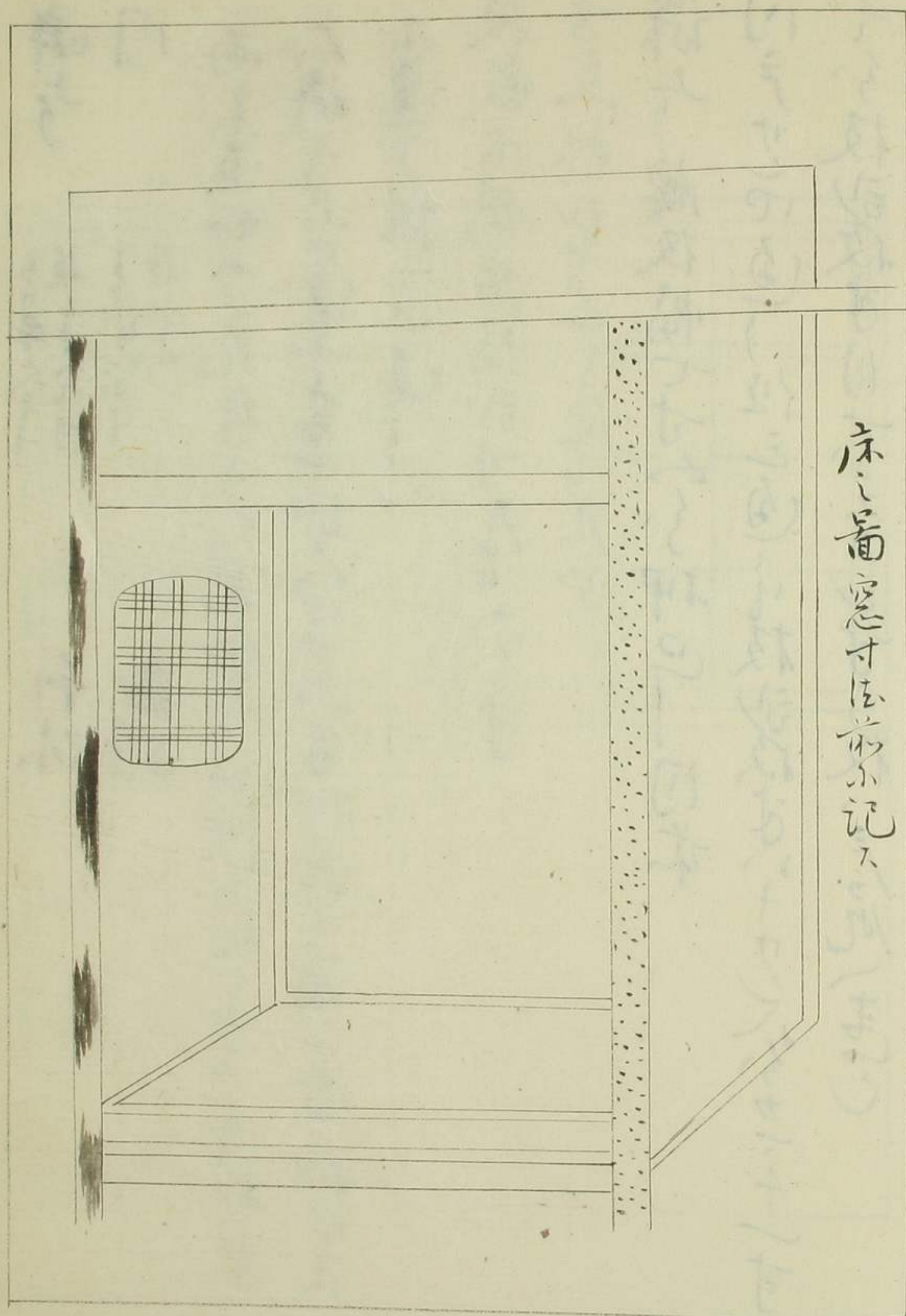
四尺八寸五分九寸五分と  
 併落掛の床縁との寸法

六尺二寸 利休  
 六尺三寸 織部ゆせ用

床高の底の寸法二尺七寸八寸五分と  
 窓のゆせ二尺八寸四分九寸五分と

幅二尺四分  
 厚一尺四分

幅二寸  
 厚一尺一分



床の幅窓寸法前記

一 辨与

高可敷八寸  
板五寸九寸

利休

一 同

高可敷八寸  
板五寸

藏部

両京道好少瓦礫多し見合より能く少くは  
小辨与上の連子高可敷八寸一弓押通る障子骨板は  
小連子組子の通り

一 狭敷后鴨居幅五寸厚サ六寸半

一 方立幅五寸五分厚サ九寸

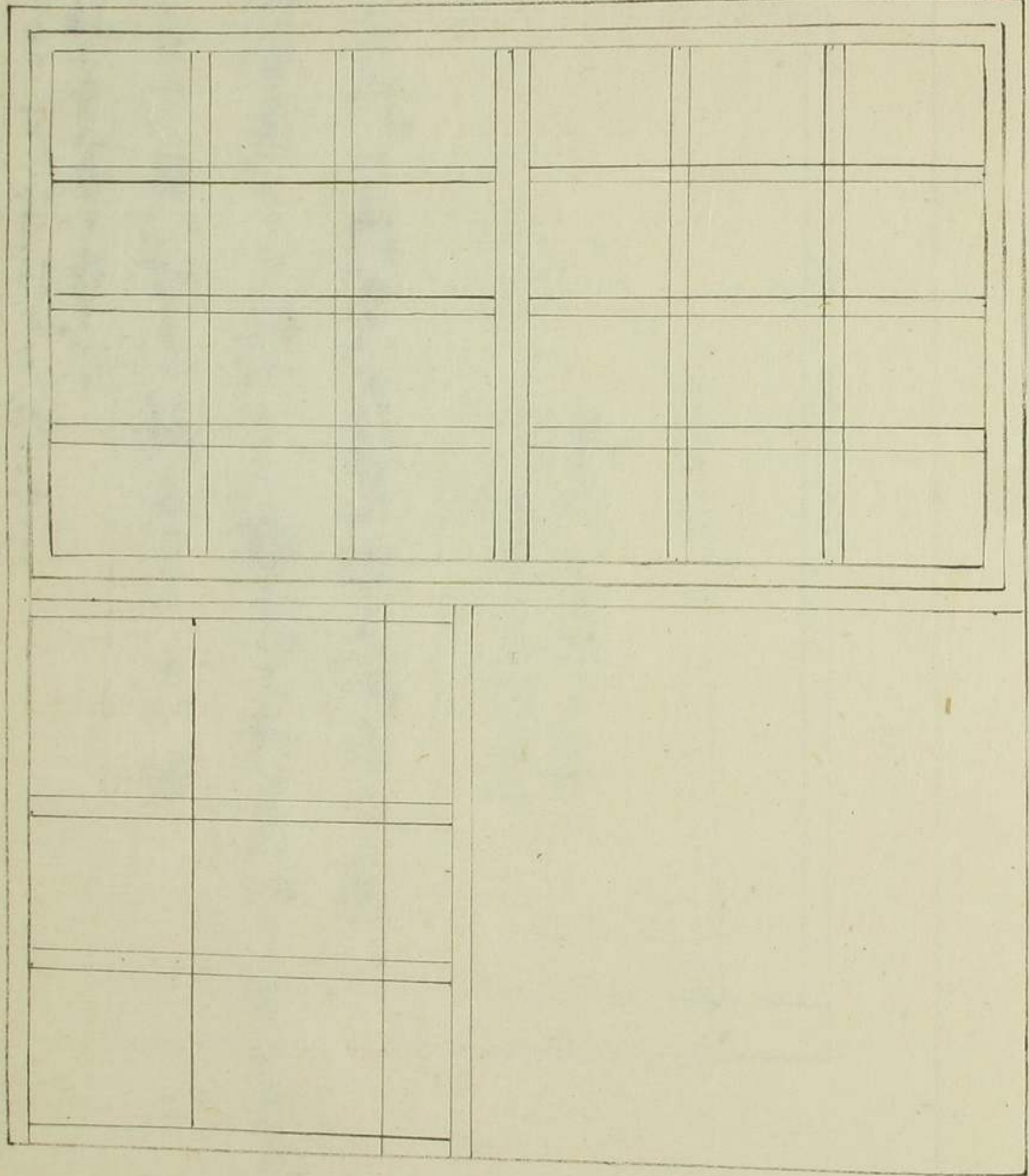
一 辨与の腰板幅七寸五分厚サ一尺

一 同戸サの通り但し通る板は五寸五分厚サ一尺

五分板は板は五寸五分厚サ一尺

辨与圖

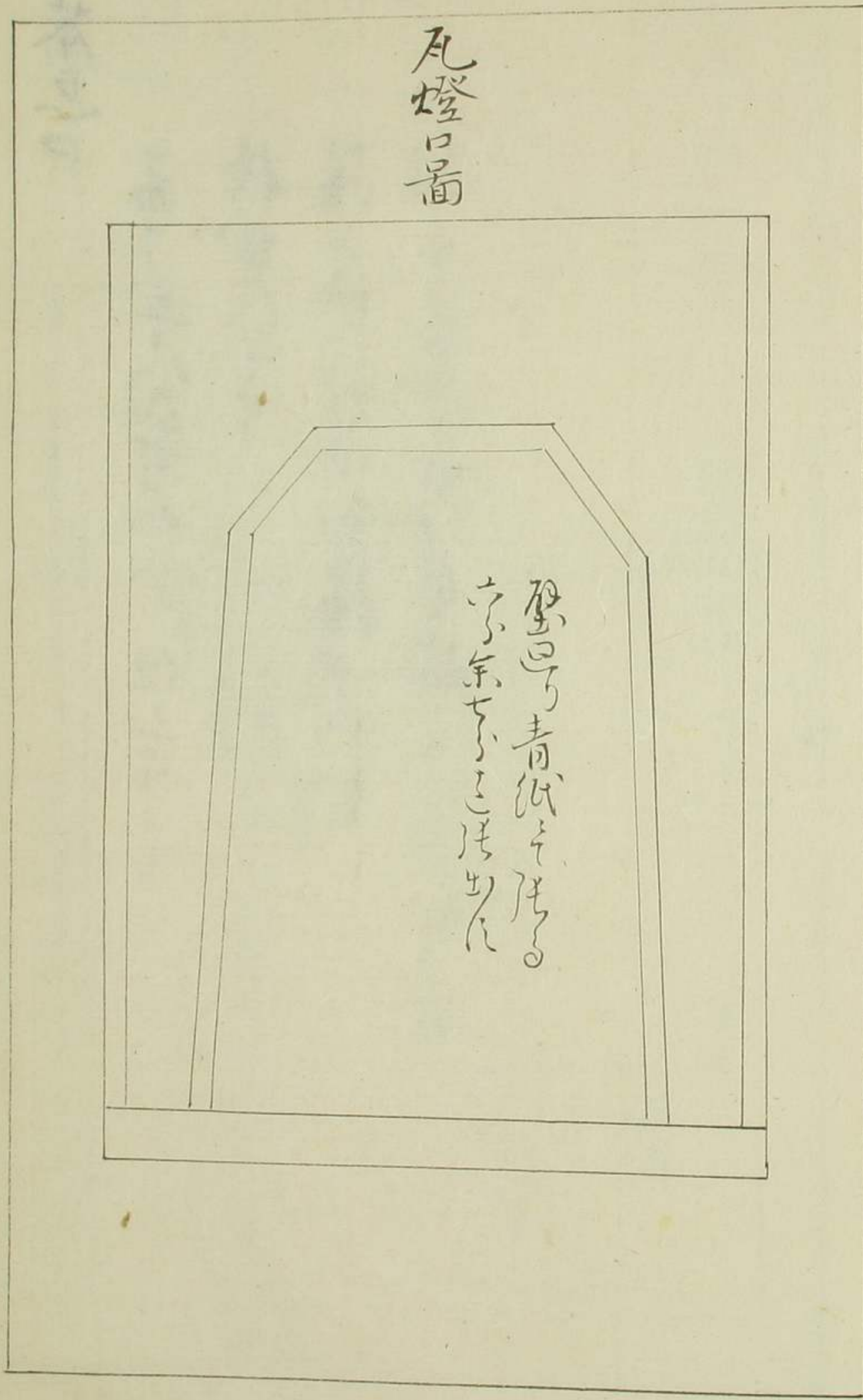
辨与は  
上下に通る  
板代り



一 瓦燈口 高可之八寸 横之九寸半  
障子骨壁口 横十一寸

似し川とあつ目にし系勝文の方いづ目  
たすつ尺合流くし好し 塗込小片方いづ下サテ  
双方木下あつ片下りり見あつ右の通し

瓦燈口番



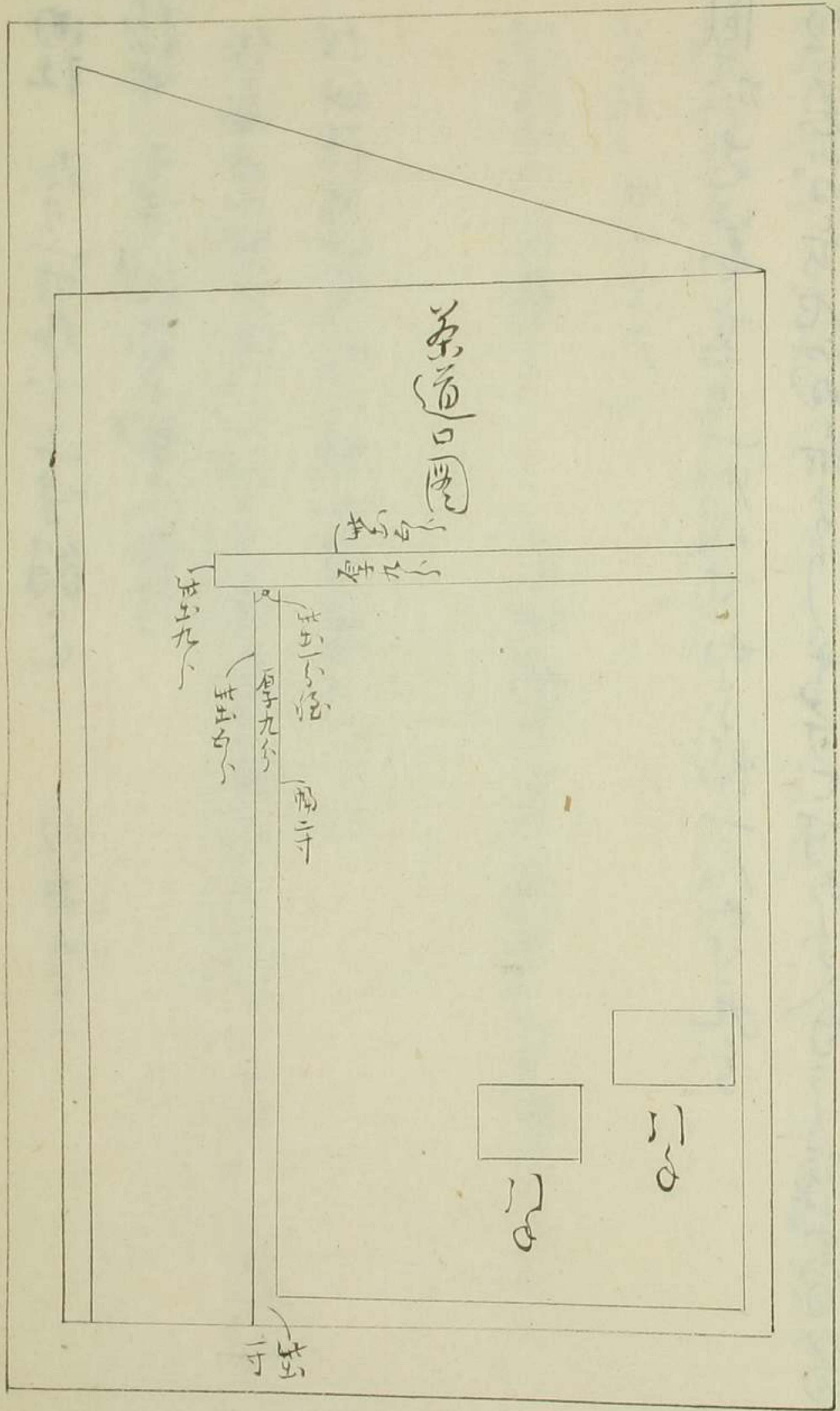
一茶室口

高サ五尺六寸五分 位三寸五分

横四尺六寸

障子障子骨四尺横十寸五分

引込下ツテ二尺目障子の方ハ七寸目





一曲柱 太リ一寸九分 二寸強と

但曲あり

一横木 三寸半 比高 部八寸

但高子上段の通しは一寸半 太目二寸半 太目三寸 部八寸 足合は  
但此横木木の厚は幅五寸厚六寸

但横木の上の壁と

この壁の厚は横木が一寸強と

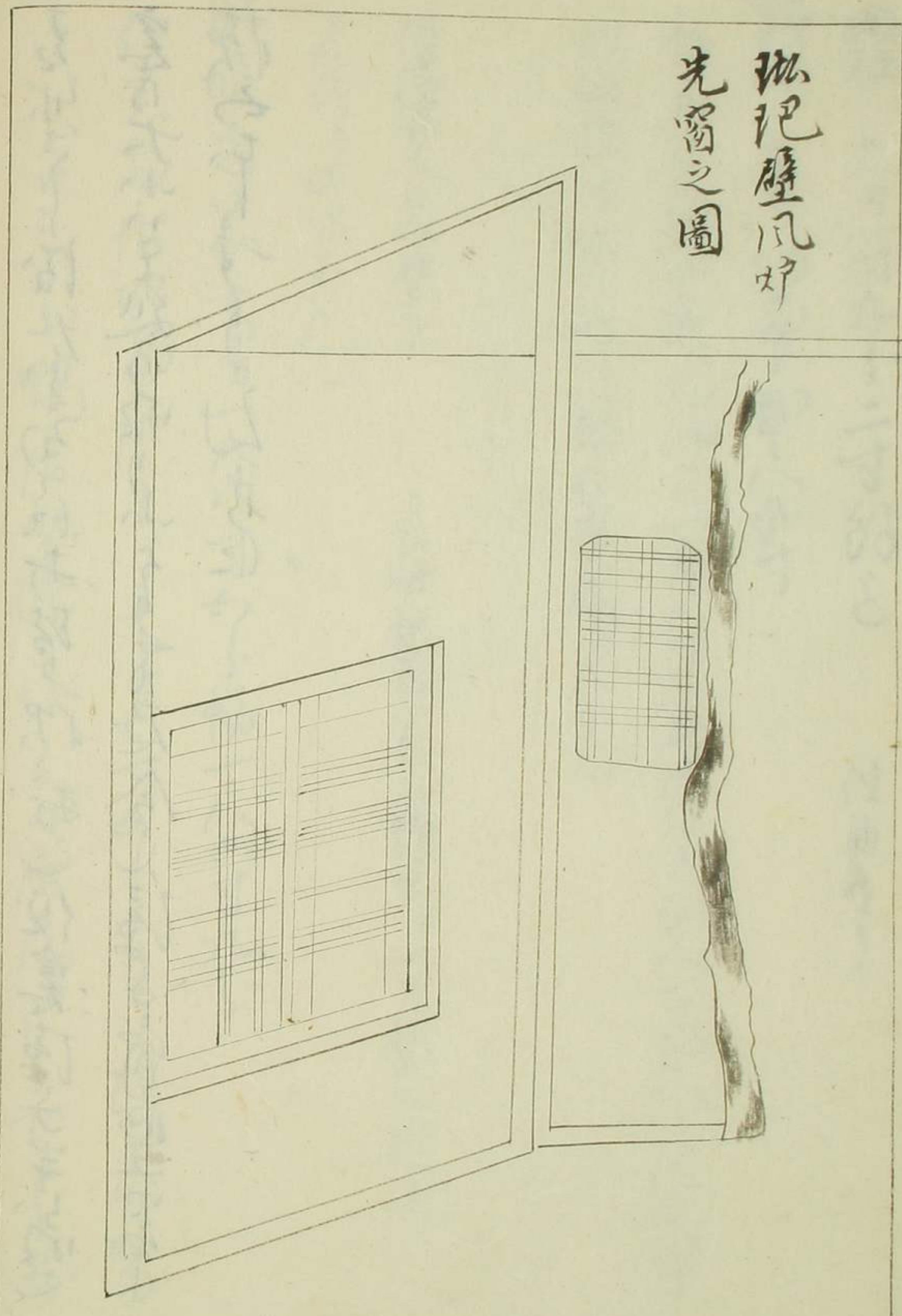
をこの木不入し

一風が足定 高リ一寸八寸 幅一寸九分

但定高は地高より三寸七寸五分 厚は一寸五分  
ちふふサこの間 鴨居の厚は一寸五分 厚は一寸五分

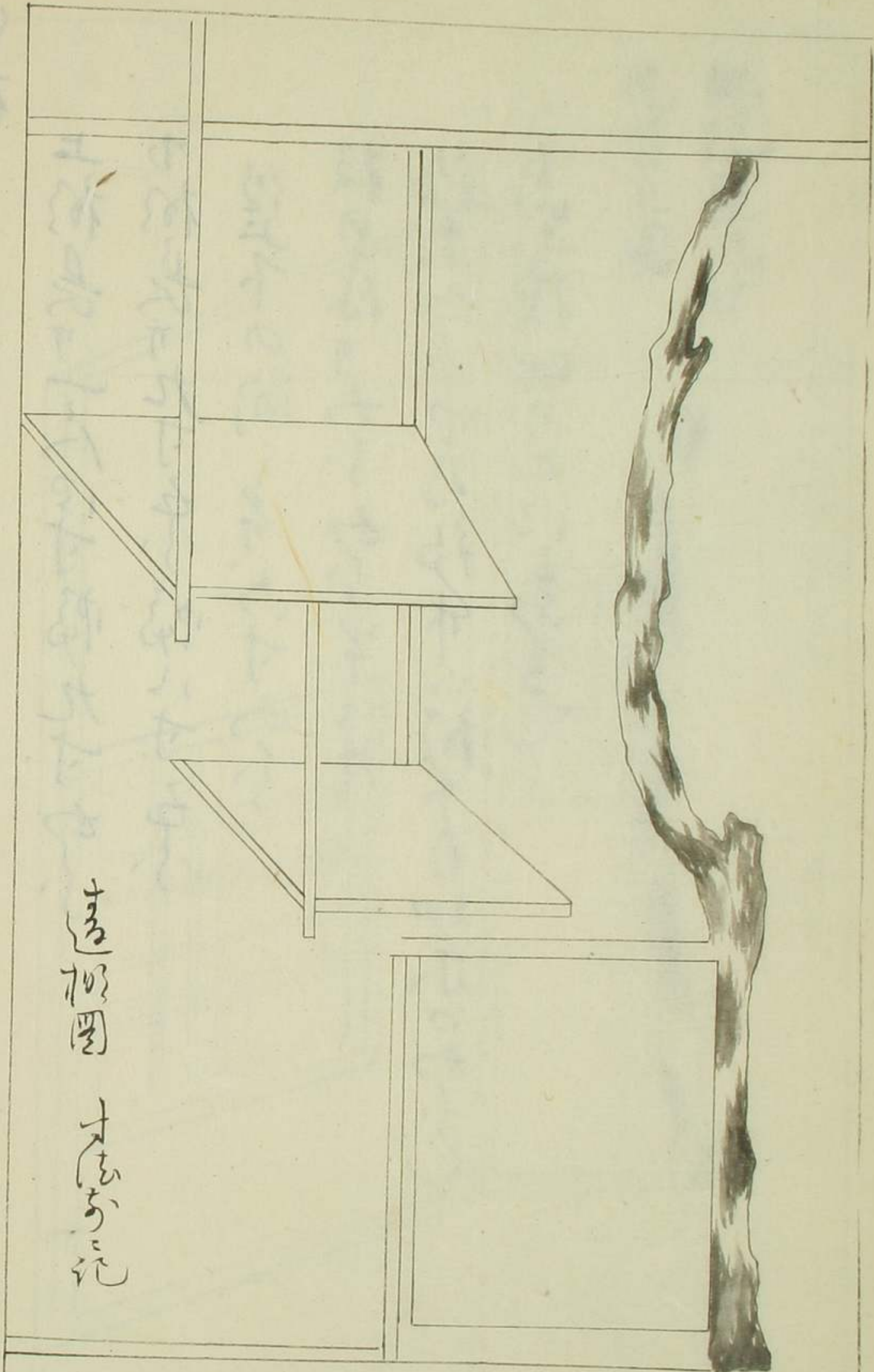
五寸五分 厚は一寸五分 打塔の厚は一寸五分 但定高は一寸五分  
定高は一寸五分 厚は一寸五分 厚は一寸五分 厚は一寸五分  
換り下す

松尾壁風炉  
光窓之圖



一透櫛

上板長一尺四寸幅九寸五分  
下板長一尺九寸五分幅八寸五分  
但上下の筒を併せて六寸五分  
板の厚さ五分五分五分  
釘木を以て釘木は板下の切木口を以て  
下板横木の上に釘を以て



遠柳圖 寸法あり

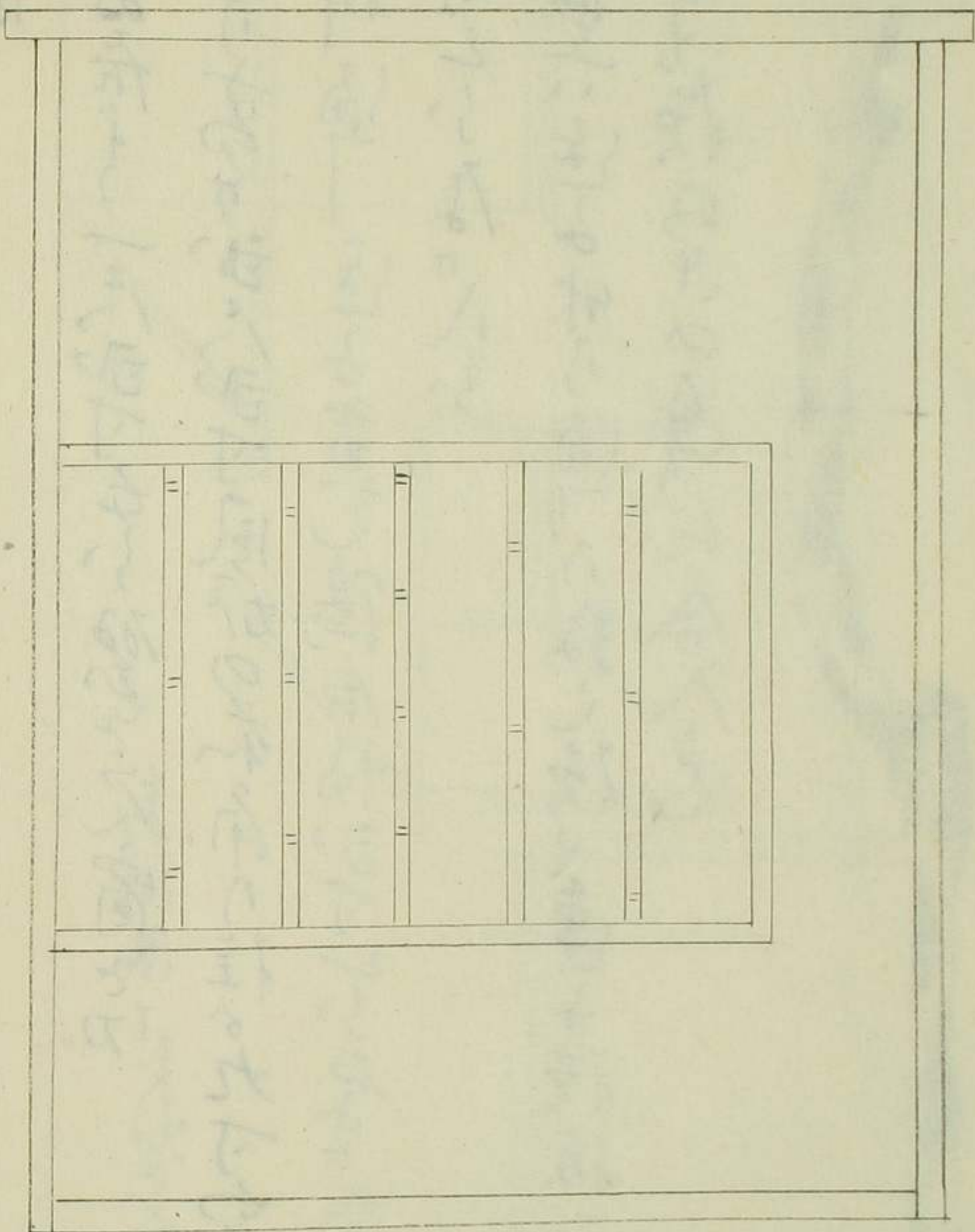
一 大月窓

上寸比お存より一尺五寸五分厚をこし窓を切

併し窓より高き部尺五寸風障の前角の柱を九寸五分に  
 厚を五寸押通し連子を九寸鴨居幅五寸五分厚を九寸お  
 存幅五寸五分厚を八寸

障子骨は連子枠に通す釘を横し連子横板二通  
 けり連子も横板の通りに合入る

大目窓図

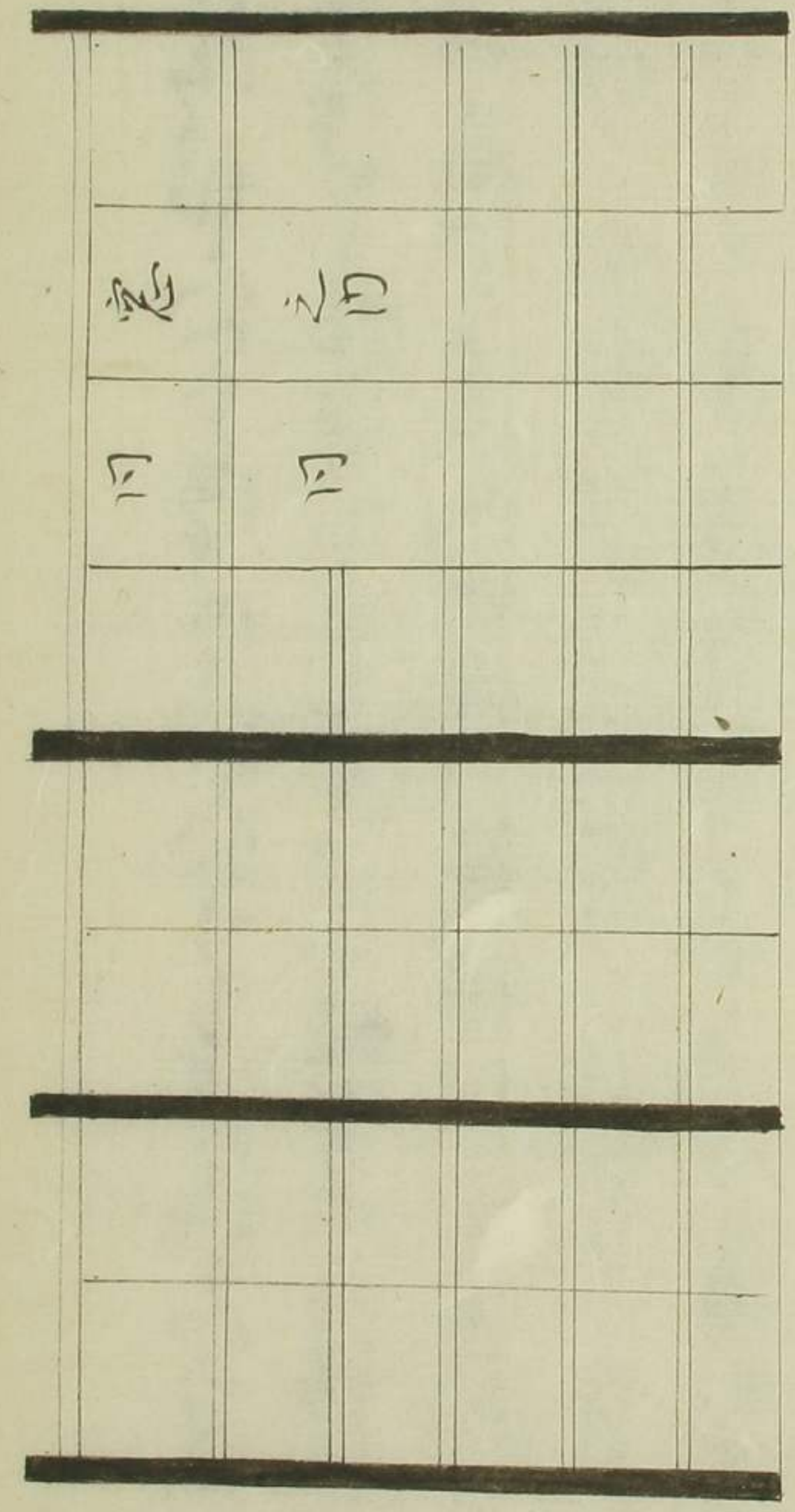


一色紙窓

二重窓

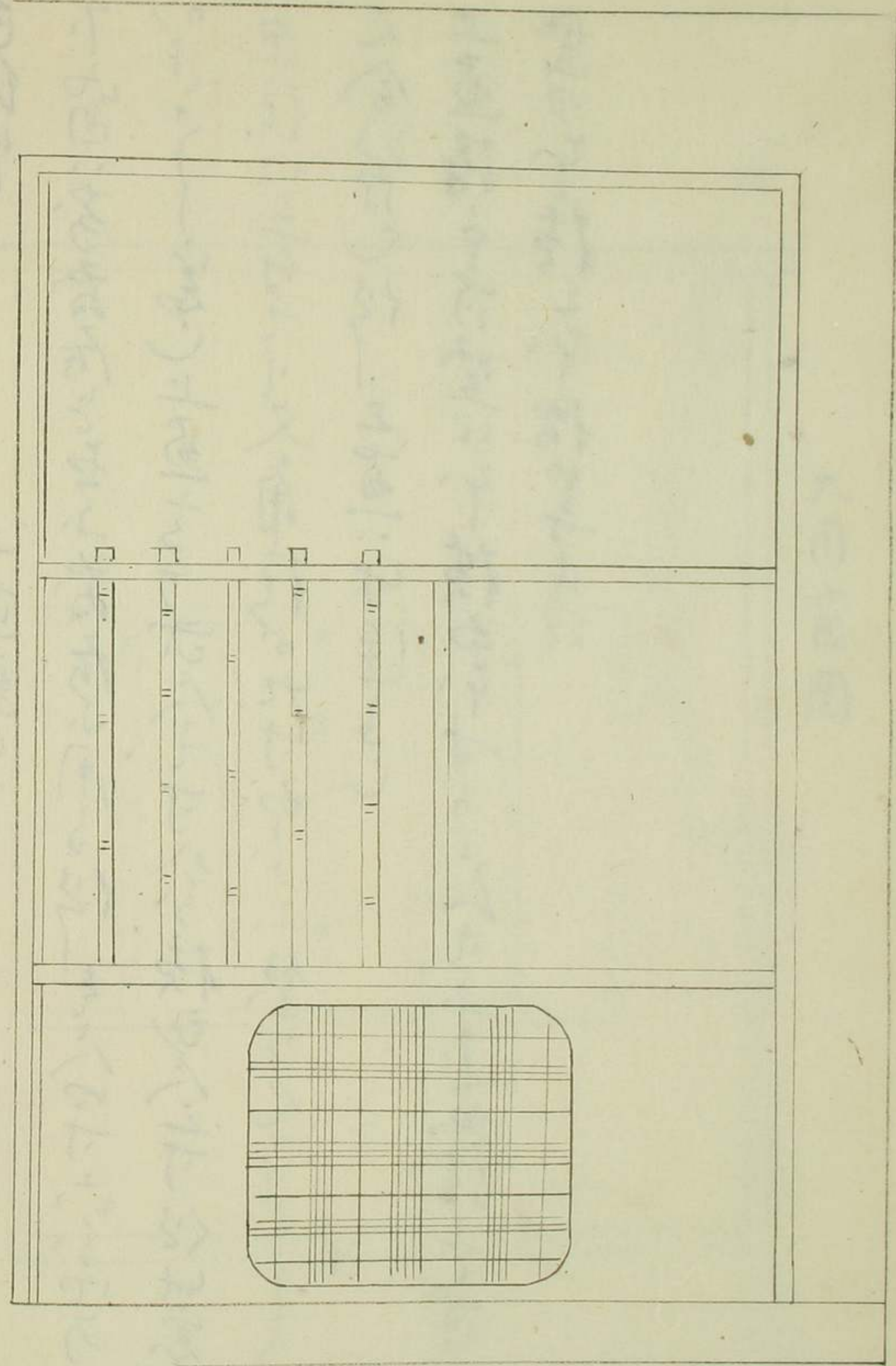
下窓の板を板と板の間を不用の隙を八寸六分四方  
 の寸法に定めて上窓の寸法を八寸八分横の寸法に定めて  
 角柱に互に付して又角柱の九寸四方の小窓を定めて  
 尺合の隙を定めて上窓の板を定めて  
 上窓の寸法を定めて下窓の寸法を定めて  
 定めて下窓の寸法を定めて

山田の窓の寸法  
 寸法



一 突揚窓

此窓一尺九寸横一尺一寸五分  
 軒檣の寸木を挿し  
 木也此一尺二寸五分を軒一尺一寸五分  
 木也此一尺二寸五分を軒一尺一寸五分  
 木也此一尺二寸五分を軒一尺一寸五分

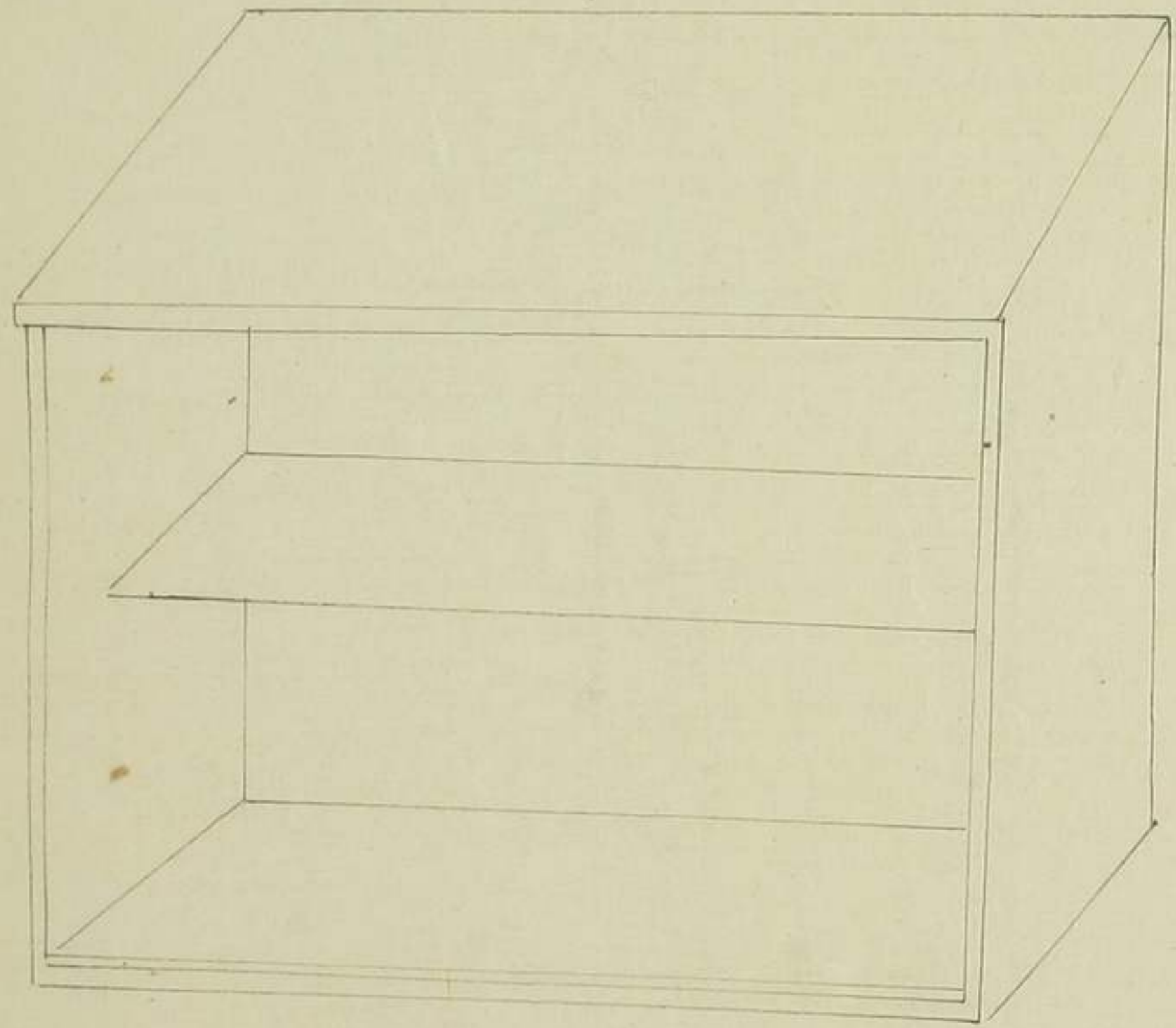


一 道幸

廣さ内法り部を八寸五分内法一尺一寸五分内法一尺一寸五分  
位陽位厚せし幅二寸五分立厚四寸五分幅二寸五分位陽位の木口  
より八寸内法の寸を八寸押直し一枚板とし又透板とし  
板の厚さを八寸幅八寸五分とし寸を八寸とし物木を二寸五分  
寸の部りや一括を底に後めの部を用ひし織道通すに  
横部八寸五分寸八寸五分と薄子宿堅を二横二寸五分寸に  
を板通しとし上下り中に切

柄付り木口縁の部は二寸柄付部より下五寸五分

道幸の圖



貞要集四之上終

